

# 山口県宇部市

【人口】 173,907人 【面積】 287.71 km<sup>2</sup> 【一般会計】 614.00 億円

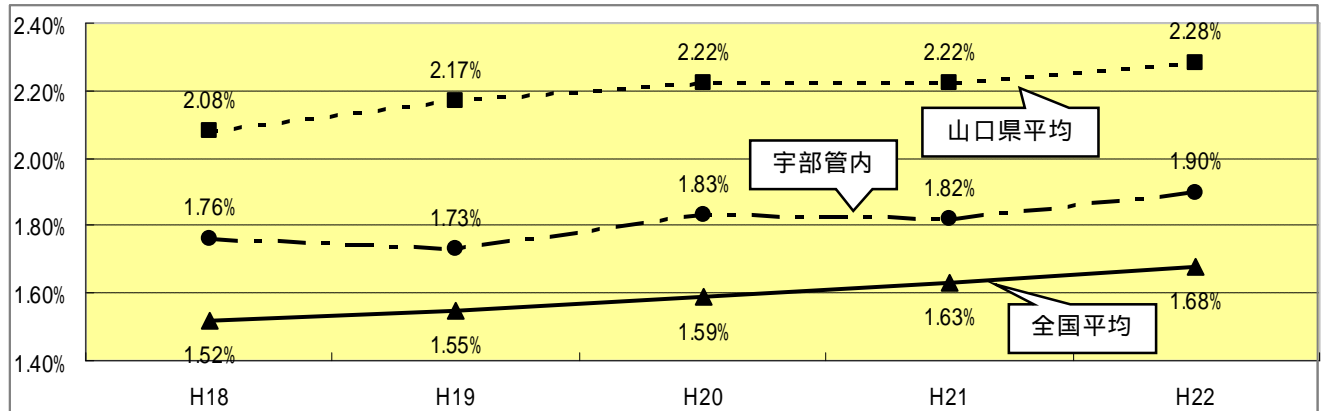
## 視察事項「障害者就労ワークステーションについて」

本市における障害者の就労支援施策の参考とするため、中四国地方で初めて、平成 22 年度に設置された宇部市の障害者就労ワークステーションについて視察を行った。

### ・障害者就労ワークステーション設置までの経緯

民間企業障害者雇用率の推移

(公共職業安定所、各年6月1日現在)



宇部公共職業安定所管内の民間企業における障害者雇用率は、全国平均よりは高いものの、山口県平均と比較すると0.3~0.4ポイント程度低い数値で推移している。この原因としては、素材供給型化学工業を中心とする近代工業都市として発展した宇部市では、「産業構造の特性上、身体障害者の就業場所は限られている。」などといった企業の固定観念に加え、知的障害者や精神障害者に対する認知度の低さもあり、障害者の就業機会に比較的恵まれなかった。

このような中、国の障害者雇用納付金制度創設や山口県の障害者施策が進むとともに、現宇部市長が平成 22 年 4 月の障害者ワークステーション設置を選挙公約として掲げ、障害者就労ワークステーションは、宇部市障害者就労支援ネット会議とともに宇部市の障害者就労支援施策の大きな柱となっている。

### ・障害者就労ワークステーションの概要

#### (1) 事業目的

市役所も一事業所として障害者を積極的に雇用し、働く意欲のある障害者の自立を促進  
庁内業務の効率化

市が率先して障害者等を臨時職員として雇用することにより、民間企業の障害者雇用を促進

#### (2) 職員採用

受験資格

ア 療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳所持者、発達障害者（医師証明）

イ 自力通勤、単独で従事可能

試験内容：実技試験及び面接試験

実技試験は、手腕作業検査又は事務作業（パソコン使用）検査の選択制で、面接試験は全員受験

### (3) 採用状況

種別	内訳	22年度受験	22年度採用	23年度受験	23年度採用
<b>受験者・採用者</b>	<b>総数</b>	<b>52人</b>	<b>4人</b>	<b>39人</b>	<b>3人</b>
実技試験別	手腕作業検査	34人	2人	31人	2人
	事務作業検査	18人	2人	8人	1人
障害種別	療育手帳	18人	1人	14人	1人
	精神・医師証明	34人	3人	25人	2人
男女別	男性	34人	2人	31人	2人
	女性	18人	2人	8人	1人

### (4) 待遇等

任用期間：採用後2カ月間は試用期間とし、最長2年継続任用

勤務条件：賃金4,900円/日、月20日程度勤務（勤務時間は8:30～16:30（1日7時間勤務））

### (5) 業務内容

データ入力、文書封入、印刷物修正、書類仕分け、並べ替え、郵便物開封、書類印刷・製本、会場設営等、市役所内のあらゆる部署から依頼を受けた定型的な業務を集約し、事務処理。

## ・メリット、デメリット

### (1) メリット

- ・ワークステーションでの一括処理のため、年間を通じて業務量が偏ることなく配分可能。また、各課での指示負担が軽減。

### (2) デメリット

- ・各課での雇用ではないため、障害者を雇用しているという実感が乏しい。（庁内間業務委託に近いイメージで捉えられがち）
- ・業務量や難易度、納期限、作業手順等の調整やスケジュール管理が必要となる。



## ・業務依頼課の反応

### (1) 洗い出し調査による効果

ワークステーションに依頼できる業務を洗い出す過程において、課の業務でムダやムラのある部分の再検証も同時にできる。

### (2) 事務事業の見直し

ワークステーションの活用が「選択肢」の一つになり、時間外勤務等の減少にもつながっている。

### (3) 「お試し」から「リピーター」へ

初めは、どの程度の業務を依頼できるのかが分からず、「お試し」感覚で業務繁忙時等に単純作業を依頼していたものが、多様な事務の中で依頼可能な業務が多いことに気づき、「リピーター」へと発展すると同時に、依頼する業務内容についても多岐にわたり、複雑化しつつある。

## ・運営上の課題

### (1) 業務受入調整

業務量や難易度、業務手順、納期限、個人情報の取り扱い等に加え、本人の状態やペース、得意（不得意）分野も考慮しながら業務を調整。

### (2) 職業意識

- ・あくまでも「就業訓練」ではなく「勤務」であることを意識させるとともに、仕事を成し遂げる「責任意識」を持たせる。
- ・チームワークの醸成

### (3) 個人の特性

仕事に熱中しすぎる者もあり、障害の種別や程度などの個人の特性と向き合うことが重要



## ・委員の感想

就労支援の取り組みでは、専門職を多数配置し、行政主導の高レベルの福祉行政が実践されており、その高い意識が市内企業の障害者雇用を主導していると感じる。

ワークステーションの取り組みについては、職員採用の制度が確立されており、サポートのシステムもできている。職員の意識改革が進んでいると感じる。市の業務の一部を担う責任を持たせていることが、障害者雇用の基底であろう。

市として障害福祉課が障害者対象に採用試験を行い、一定期間採用して、その間業務に従事させながらビジネスマナー研修等を行い、民間企業への就職支援を行う政策は、本市においても検討と議論を行う必要があると感じた。

「働きたい」と願う障害者の思いと「障害者の社会とのつながり、生きがいへの後押しをしたい」と願う関係者の思いを、障害者雇用への理解と啓発、宇部市のまちの気運アップの視点から、連携（ネットワーク）による取り組みを実施している。

障害者の就労を支えるネットワーク会議を通じて、障害者雇用への理解と啓発を行い、就労支援を進めている様子がよく分かりました。現場で働いている姿を拝見させていただき、個々が協力し合いながら連携を取って仕事に向き合っておられ、大いに進められるべきだと思いました。ただ、民間企業での様子が見えないので何とも言えないが、企業側と雇われる側のマッチングの問題があると思われるし、社会全体が障害者に理解を持てるような施策を施していく必要があると思いました。